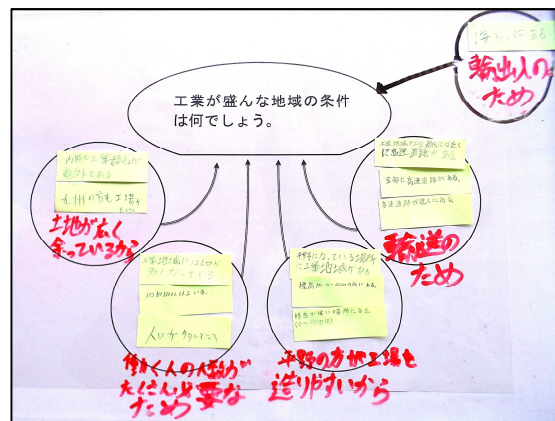


1 小单元名及び小单元の目標

工業生産と工業地域（3/6 本時）

- ◎ 我が国の工業生産と工業地域の様子に関心を持ち、進んで調べることを通して、各種の工業生産や工業地域の分布、工業を支える運輸などの働き、各種の工業生産が優れた技術を開発・伝承しながら営まれて国民生活を支えていることを理解する。



2 本研究授業の提案について

工業生産と工業地域について考えさせるための手だてとして、以下の二つについて提案を行った。

資料1 クラゲチャート

- (1) 導入で、京浜、中京、阪神工業地帯と、瀬戸内工業地域の航空写真を提示し、気付いたことを発表させたが、工業が盛んな地域の外観に気が付き、工業が盛んな地域の条件を予想させる手がかりにすることができた。しかし、それらの工業地域が日本のどの場所に位置するかの確認をしなかった。講師の先生からも日本全体を俯瞰するという観点から、教室に常に日本地図を掲示し、その都度確認することが大切であるというご指導をいただいた。展開では、日本の工業地帯と地形、人口、交通網の地図を資料として与え、それらの資料から工業が盛んな地域の条件を考えさせた。個人で付箋に書いた事柄をグループで発表し合い、さらにその条件が必要である理由を話し合わせた。四つの項目が一つの資料にまとめられていることから、条件に気付かせやすく、ほとんどの子供たちが付せんにもとめることができていたので、本時の内容を理解させる上で有効な資料だったといえる。しかし、検討会では四つの資料を同時に与えるのではなく、条件を考える上で必要な資料を選ばせたり、どの資料を見れば分かるかを考えて探させたりする方法も有効なのではないかという意見が出された。

- (2) グループ活動では、一人一人が付箋に書いたものを、クラゲチャートに分類しながらまとめ、それぞれの条件が必要である理由を考えながら話し合わせた。同じような流れで数回授業を進めてきたこともあり、話し合いはスムーズに行われ、理由についても活発に意見交換が行われていた。クラゲチャートを使ってカテゴリー分けすることで、同じ内容が視覚的にもとらえやすくなり、考えを整理する上で有効だった。また、グループ内で意見交換することで、自分の考えを見直したり、考えを広げたりすることができた。さらに、考えを整理しきれない児童も、友達の考えを聞くことで理由に気付くことができていた。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 今回の資料の選択と活用は、本時のねらいに迫る上で効果的だった。ただ、児童の考える場面をさらに充実させるためには、資料の提示の仕方に工夫が必要である。また、その資料を子供たちに見つけさせるような仕掛けがあれば、資料を活用する力がさらに高まるのではないかと考える。
- (2) 一人一人が自分の考えを付箋に書き、グループでクラゲチャートにまとめていく活動は、学習課題とその答えが視覚的に捉えさせやすく効果的だった。しかし、今回の時間配分では全部のグループの考えを発表させることができず、担任が気付かなかった児童の貴重な考えを、まとめに生かし切れなかった。子供たち一人一人の見取りと、全体のまとめの仕方に課題が残った。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は社会科において、クラゲチャートを活用しグループでの話し合い活動を取り入れた授業を2回行った。社会科では授業のねらいに迫るための資料の精選が不可欠であり、資料を選ぶための教材研究にも力を注いできた。2回の研究授業を終えて、子供たち一人一人の見取りや子供たちの考えの集約の仕方など授業技術課題は多く残ったが、実感に伴う社会科の授業の資料提示の仕方や進め方が少し分かるようになってきたことが大きな収穫である。また、クラゲチャートを活用することによって、考えの整理がしやすくなることでグループの話し合いも活性化できることが確認できたことも成果であると考えている。